

中国空軍が通信系統を改善

漢和防務評論 20151201 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国空軍が近年通信系統を改善したため、台湾は中国戦闘機の交信を傍受できなくなったとのことです。
中国戦闘機の指揮もかつては地上から逐一指示を出していたのが現在は、早期警戒管制機からの指示になったとのことです。
指揮系統の改善と通信機器の進歩によって可能になったと思われます。

KDR 台北平可夫特電：

KDR 記者は、10 年前、航空自衛隊の消息筋から、中国空軍の第 3 世代戦闘機は、暗号化されないコールサインを使用しているので、傍受が容易である、と聞いていた。しかし台湾空軍を退役した権威筋は、KDR に対し、近年、このような状況は存在しないと述べた。少なくとも台湾海峡においては、中国空軍パイロットは、すでに暗号化した通信系統を使用し、傍受は出来ない。このことは、中国空軍が通信系統の改善に巨額の経費を支出したことを証明している。

また可能性として考えられることは、空中（早期警戒機）からの指揮及びデータリンクの運用が開始され、その成果が現われたのではないと思われる。中国空軍が装備する 3 種類の早期警戒機はデータリンクによる指揮機能及び情報伝達機能を有している。また指揮系統は、旧ソ連式の地上からの指揮によるのではなく、早期警戒機を中心とする指揮体系に改められた。

上述の状況は、台湾海峡第一線の中国戦闘機はすでに第 3 世代戦闘機が主であり、少量の J-8F 戦闘機もまた暗号化した通信系統を使用していることを意味する。

以上